

# 平成16(2004)年度春学期 授業評価アンケート実施状況

授業アンケート実施率は、昨年度春学期対比14%と上昇(56%⇒70%)  
 大学は69%、短大は75%の実施率(法学部は独自調査を実施)

## 授業評価アンケート実施状況(1)

学部(課程)別

科目 開設単位	対象 科目数	実施 科目数	履修 者数	回答 者数	実施率 (科目)	回答率
共通 A	13	8	1,651	561	62%	34.0%
共通科目	200	156	19,571	6,716	78%	34.3%
教職	31	17	1,066	600	55%	56.3%
経済	104	73	9,632	3,454	70%	35.9%
外国語	116	81	4,051	2,354	70%	58.1%
経営	99	73	10,124	4,331	74%	42.8%
法学	94	42	8,078	1,583	45%	19.6%
文化	101	73	5,880	3,119	72%	53.0%
大学小計	758	523	60,053	22,718	69%	37.8%
短大部	124	93	3,675	2,204	75%	60.0%
情報リテラシー	1	1	1,449	1,194	100%	82.4%
総計	883	617	65,177	26,116	70%	40.1%

課程表区分	対象科目数	実施科目数	実施率
共通_A	13	8	62%
共通_B	200	156	78%
教職資格	31	17	55%
経済	104	73	70%
英語	90	69	77%
露語	26	12	46%
経営	64	51	80%
産情	35	22	63%
法	94	42	45%
日本語	77	54	70%
比較	24	19	79%
短大_共通	15	13	87%
短大_司書	11	7	64%
英文	51	37	73%
管理	29	24	83%
秘書	18	12	67%
情報リテラシー	1	1	100%
総計	883	617	70%

課程表区分	対象者数	回答者数	回答率
共通_A	1,651	561	34%
共通_B	19,571	6,716	34%
教職資格	1,066	600	56%
経済	9,632	3,454	36%
英語	3,513	2,144	61%
露語	538	210	39%
経営	8,642	3,686	43%
産情	1,482	645	44%
法	8,078	1,583	20%
日本語	4,466	2,274	51%
比較	1,414	845	60%
短大_共通	470	258	55%
短大_司書	475	247	52%
英文	1,442	831	58%
管理	874	606	69%
秘書	414	262	63%
情報リテラシー	1,449	1,194	82%
総計	65,177	26,116	40%

備 考	①法学部関連科目(共通 A 及び法学)については、法学部独自調査があり、他のものとの単純比較はできない。
	②「短大」には、短大共通・英文・経営管理・経営秘書を含む。
	③「情報リテラシー」は各学部開設のコンピュータ入門科目を一括運営しているものを含む。

- ☆実施率は昨年春学期の56%に対し約70%と、上昇。
  - ☆但し、回収率は昨年春学期の55.4%に対し40.1%と15ポイントほど低下。
  - ☆実施率・回答率とも、学部・課程によって格差が存在している。実施率は独自調査を行う法学部を除き50%を超えているが、回収率(学生の授業出席率)は経済学部の35.9%から外国語学部の58.1%、短大部の60%まで、10数ポイントの開きがある。
  - ☆大学に比べ短大の方が実施率・回収率が共に高くなっている。
- ↓
- ☆実施率は、昨年度までは春学期(前期)50数%、秋学期(後期)70%余であったが、今期の実施状況を見ると、春学期においても「授業評価アンケート」の浸透度は高まったと評価できる。

備 考	各学部開設科目ごとに集計
-----	--------------

## 授業評価アンケート実施状況(2)

学部(課程)別:「合併科目」を配慮

科目 開設単位	実施科目数	コマ数	回答者数
共通科目	77	158	6,903
情報リテラシー	1	39	1,194
教職等	14	17	600
経済学部	52	73	3,275
外国語学部	46	82	2,281
経営学部	63	78	4,475
法学部	40	50	2,119
文化学部	59	75	3,275
大学小計	352	572	24,122
短大部	70	94	2,214
総 計	422	666	26,336

- ☆学部内同一科目名の合併授業は「1科目・1コマ」として算出。
- ☆学部を跨る合併授業は各学部で夫々カウント。
- ☆但し、合併科目の正確さを期すると集計方法によって誤差が生じる。「分析目的」に応じた分類が必要となる。